

三遠南信地域交流たずねある記（6）

三遠南信地域 路線バス乗り継ぎの旅（2）
飯田駅から浜松駅へ（2）

～コロナによる運行への影響が～

テレビ東京の人気番組「ローカル路線バス乗り継ぎの旅」（以下「テレ東番組」）に倣い、飯田から三遠南信地域内のバス路線を乗り継ぐ旅。コロナの終息を待っていたものの一方向に兆しが見えないなか、路線バスの旅を再開することとした。

■国道152号線の崩落、不通

前回（令和2年11月発行号No.500）、広域バス遠山郷線で飯田駅から南信濃和田のかぐらの湯に到着、かぐらの湯からは乗合タクシー八重河内線で柿平へ、そこから徒歩で兵越峠を超えて水窪町に到着した。ここから浜松を目指すのであるが、路線バスは運休となっていることが判る。令和2年7月の豪雨により国道152号線は3箇所崩落等が起き不通に。復旧工事が進められるなか、同年10月の雨で迂回路としていた天竜川対岸の県道285号線までにも崩落が発生、通行止めとなり、路線バスは休止となっていた。

かつて水窪の方にインタビューした際、三遠南信自動車道への期待として「国道152号は頻りに雨量規制の通行止めがかかる。崩落もしばしば。災害への強靱化に期待」と聞いて、南信州地域の道路に比べればそれほど悪いとは思えないのに、と思ったものだが、正にその通りの事態となった。浜松市は復旧に取り組み、国道152号線は同年12月に暫定開通。県道も含め全面復旧は3年2月26日となった。この間工事の進捗状況は浜松市HPで逐次公表された。

152号不通時には三遠南信自動車道の東栄IC～佐久間河合IC間が供用（前年3月）されており、水窪、佐久間方面の方々にとり、同自動車道が地域の孤立を防ぐのに大いに役立った。

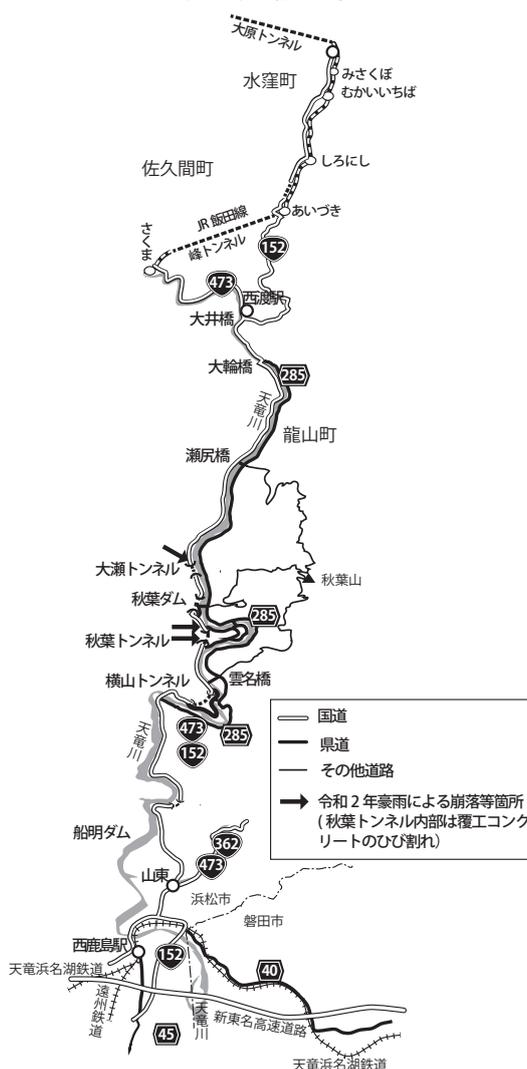
■水窪と浜松地域を結ぶバス路線

水窪町からは前回の続きで自主運行バス北遠本線15時53分発西鹿島駅行きに乗車。乗車は私と旅行者風のもう一人。これは最後まで変わらなかった。



二俣市街地と二俣城址

三遠南信地域路線バス乗り継ぎの旅 概略図
水窪町～西鹿島駅



このバス路線は、かつて国鉄が1946年から1987年に運行していた。国鉄二俣線（現天竜浜名湖鉄道）二俣駅から佐久間駅までの新線構想（「佐久間線」、飯田・中津川線と同様）があり、その先行営業の意味合いがあったという。1987年から2002年はJR東海バスが担当。2002年からは遠鉄バスが北遠本線を運行していたが2019年に撤退、替わって浜松市によるコミュニティバスとなった。運行は地元の水窪タクシーが担っている。



浜松市自主運行バス北遠本線
水窪町～西鹿島駅 800円

バスは佐久間からの国道473号との合流点を目指し進む。暫く飯田線と並行して走るがやがて152号は狭くなり、車両のすれ違いが厳しくなる。対向車は大概突っ込んでくるので、バスの運転手は前方の様子を見ながら予め避け合いできる箇所^に止まって道を譲っている。

473号との合流点に近づくと152号は2車線の改良された状態になる。国道473号合流点にある橋を大井橋というが、バスは一旦佐久間方面へ右折し、橋を渡ったところの西渡^{にしと}というバス停に停車。かつてはバス乗務員の宿泊施設に使われたという建物の前でUターンし浜松方面へ取って返した。

■天竜川沿いに

バスは天竜川に沿って152号（473号と重複）を走る。大輪橋で天竜川を渡りこの先は右岸を走る。左岸には並行して県道285号線。この辺りから天竜川の流はゆったりとし、ダム湖（秋葉ダム）の様相を呈してくる。



天竜川沿い人工林

天竜川に沿って見事な人工林が続く。そういえば小学校の頃「日本三大美林」という言葉を聞いたな、と思い出し調べると、「①木曾ひのき ②津軽ひば ③秋田すぎ」とあり、あれ違ったかな、と思うと続いて「人工林の三大美林として①天竜すぎ ②尾鷲ひのき ③吉野すぎ」が出てきて、記憶違いでなかった。私たちの頃は修学旅行というと飯田線で豊橋・名古屋方面へ向かった（北へ行くこともあるが）もので、道中のこととして旅行のしおりに書いてあった。この造林事業には金原明善翁^{きんばらめいぜん}の尽力があったことも副読本などで勉強したもので、今の子どもたちはどうなんだろうか。



秋葉ダム（浜松市天竜区）

秋葉ダムの横を通過し、秋葉トンネルを過ぎると秋葉神社への入り口を示す巨大な対の石灯籠が並ぶ秋葉神社へいく県道285号の分岐点（停留所は秋葉橋入口）となる。現在の国道152号が秋葉街道と呼ばれる所以の場所。昔の人はここを目指し街道を往来した。



秋葉神社石灯籠と雲名橋（浜松市天竜区）

初めて兵越峠を越えて北遠に来た時、峠を越えてからここまでの道中の長いことに驚いた。信仰によるものとは言え、信州方面から歩いてここまで来ることの凄さを感じ入った。

■二俣地区を経て終点西鹿島駅へ

次の船明ダム湖を過ぎると旧天竜市の中心部二俣地区になる。バスは国道152号を離れて二俣市街地に入り旧天竜市役所の天竜区役所などのバス停を通過していく。ここを過ぎるといよいよ終点の西鹿島駅になる。西鹿島駅という名は馴染みがなかったが、調べると天竜浜名湖鉄道の駅であり遠州鉄道の終着駅であることが判る。始発駅は、あの三遠南信しんきんサミットの遠州開催で物産展などの会場となるギャラリーモールから見える遠州鉄道新浜松駅である。

西鹿島駅で降り、今来た方を振り返ると、二俣城址や二俣の街が天竜川、二俣川の合流点に面して交通の要所であり、全体城塞のように見えなくはない(本頁下写真)。まさに浜松を含む遠州平野の喉元となっているのが判る。

戦国時代、甲斐の軍勢が青崩峠(兵越峠)を超えて天竜川沿いの溪谷を南下して来て二俣までたどり着いたとき、この二俣を確保できるかが作戦の帰趨を決することになる。二俣城は、武田信玄の元亀4年(1573年)いわゆる三方ヶ原の戦いの際、徳川方の城で抵抗を続けたがついに落城。武田信玄の遠州・三河への侵攻へと繋がった(その後、野田城で発病、根羽または駒場で病没)。

城址を訪れると本丸には天守の石垣が残されている。本丸から下を見ると天竜川の流れが城からの崖を洗っている。遠くは平野を見通すことができ、戦略上の要所であることを改めて思う。



二俣城址



本田宗一郎ものづくり伝承館
入場料 無料

■二俣の街で発見 ものづくりの原点

この街はHONDAの創業者本田宗一郎氏に縁のある処として、本田宗一郎ものづくり伝承館が二俣城址の近くに設置されている。本田宗一郎氏は天竜区山東(旧磐田郡光明村)の出身で二俣城址に間もない現浜松市立光明小学校に通っている。伝承館は小ぶりながら、たくさんの貴重なバイクや宗一郎氏の辿った軌跡がわかり易く展示されている。改めてじっくりと訪れたい場所であった。

いよいよ次は浜松駅へ向かうバスとなる。



西鹿島駅方面から見る二俣城址、天竜・二俣川合流点

(飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 リニア・三遠南信対策室 加藤 修平)